



身のかゝみ下



第一

舟の程とあらう事

第二

こゝろの程とあらう事

第三

武道と心掛とて軍治身とあらう

第四

舟の程とあらう事

第五

口傳の程とあらう事

第六

舟道とあらう事

第七

とらんとあらう事

第八

とらんとあらう事

第九

徳園の程とあらう事

第十

めくさ物の程とあらう事

第十一

舟の程とあらう事

第十二

理の程とあらう事 第十三 親の程とあらう事



うくうく久し

中六 千道

千道ふと此の人の色欲無常とて人の國處より公
かてんちやう人の色欲無常とて人の國處より公
いと病療がふれと業せんしんもあつてあつてあつて
うりそまじなまあつてあつてあつてあつてあつて
と二錢三錢はじめてあつてあつてあつてあつてあつて
二三百ははらひあつてあつてあつてあつてあつて
ふりほりあつてあつてあつてあつてあつてあつて
ふも合食屋のあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



第八 せんくち物鏡りす

▲ある町人なとする人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲さ
しあはれあひあひとついでに物鏡をいかに欲しあはれあひあ
余亦之と驚愕と仕せしめての事なりとある町人金鏡
りしとある人二人に物鏡をいかに欲しあはれあひあ
命ぬきとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひ
めしてついでに物鏡をいかに欲しあはれあひあ
家町人驚愕と仕せしめての事なりとある町人金鏡
多しとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
鏡の事なりとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
しついでに物鏡をいかに欲しあはれあひあ
ある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
ある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ

さしついでに物鏡をいかに欲しあはれあひあ
ふひと入るる人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
百歩而後止或五十歩而後止以五十歩笑百歩則何如曰不
可直不百歩耳是亦走也とある町人金鏡りしとある町人金鏡
みとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
めとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
居命とある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
つとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
つとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ

第九 徳守り物鏡りす

▲衆とありとある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ
決めてついでに物鏡をいかに欲しあはれあひあ
別とある人三人つぎつぎと物鏡をいかに欲しあはれあひあ

此の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは

第十一 世に生れしは

世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは
 人の世に生れしは 人の世に生れしは 人の世に生れしは



Handwritten text in cursive style, partially obscured by damage and bleed-through from the reverse side. The text is written vertically in several columns.

寛文八^戊申年正月吉日

松會開板

